

自動車小売業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	5	17 ～ 18	中古商品車を回送するため、国道の中央分離帯の切れ目のところで転回しようとしたときに、後続車輻に追突された。	231	17	10 ～ 29
1999	3	8 ～ 9	仕事の打合せに行くときに、国道の横断歩道を渡らず会社の前を横断していて、下り車線を渡り、次いで上り二車線のうち手前車線の車が停車したので前へ出たところ、その奥の車線を走行してきた乗用車に跳ねられた。	231	17	30 ～ 49
1999	4	14 ～ 15	社屋の解体工事現場から廃棄処分にする鉄骨をもらいに行って鉄骨を解体するため、地上に寝かせた鉄骨の上で錆びて外れない鉄板をバールでこねて外そうとしていたときに、バランスを崩し横にあった鉄骨の上に倒れて頭と背中を強打した。	364	2	1～ 9
1999	6	14 ～ 15	マイカーセンターで車庫証明書を受け取り、所有権解除をするため所在地を探しながら国道を走行中、交差点の側道と高架に分離する分離帯に激突した。	231	17	1～ 9
1999	9	16 ～ 17	自動車用エアバッグを廃棄処分するため、4本重ねにした乗用車用タイヤの内部に廃棄するエアバッグを入れ作動させたところ、エアバックの作動衝撃でタイヤごと吹き飛ばされ、タイヤ上部を押さえていた者が、約1メートル離れたアスファルトの地面に前頭部から激突した。	391	3	30 ～ 49
1999	9	21 ～	車両センターへ向うため中型自動二輪で国道を走行中、交差点で直進しようとしたときに、反対方向から右折してきた乗用車と接触した。	231	17	1～ 9

		22				
2000	6	16 ～ 17	乗用車で国道を走行中、緩いカーブで対向車線にはみ出してトラックと正面衝突した。	231	17 ～ 29	10
2000	1	11 ～ 12	営業のため乗用車で国道を走行中、シャーベット状の雪のためスリップして対向車線にはみ出し、2tトラックと正面衝突した。	231	17 ～ 29	10
2000	12	11 ～ 12	中古車購入希望の客の試乗要望があったので、試乗車の助手席に同乗して走行中、客がハンドル操作を誤って中央分離帯を乗り越え、対向の乗用車に正面衝突した。	231	17 ～ 9	1～ 9
2000	4	11 ～ 12	トラック(積載荷重4t)のシャシー側面に補助用の燃料タンクを取付けるためトラックの下に入り作業を行っていたときに、他の者が後方に停車中のトラックを移動するためにこの車輛を移動させたため、作業中の者がトラックの後輪の軸受けと作業床との間に挟まれた。	221	7	1～ 9
2000	3	16 ～ 17	商談を終えて乗用車で走行中、大型トラックと正面衝突した。	231	17 ～ 49	30
2000	11	14 ～ 15	お客から依頼をされた1000ccのオートバイを修理したのちテスト走行中、信号のない交差点で右折してきた乗用車の左後部と衝突した。	231	17 ～ 9	1～ 9
2000	9	8 ～ 9	客から引き取り自宅まで乗って帰った代車(最大積載量850kgのトラック)を運転して店へ移動中、中央分離帯に接触しその反動で左側の防音壁に激突した。	221	17 ～ 29	10
2000	4	13 ～ 14	同僚が運転する社用車に同乗して国道を走行中、対向のバンが中央線を越えてきたため正面衝突した。	231	17 ～ 29	10
		16	店舗周囲の窓ガラス面を清掃のため、高さ2mの脚立にまたがって作業を行			10

2000	12	12 ～ 17	い、脚立から降りようとしたときバランスを崩て転落した。	371	1	～ 29
2001	2	13 ～ 14	事務所の屋根の除雪を一人で行っていて、バランスを崩し約4m下の地上に墜落した。	415	1	1～ 9
2001	4	16 ～ 17	国道において、中古乗用車3台を貨物船に積込むためキャリアカーへの積込み作業を行っていたときに、走行してきた4tトラックに激突され、1名がキャリアカー後部の鉄柱と積載済みの車との間に挟まれた。	221	17	1～ 9
2001	4	16 ～ 17	国道の交差点付近で故障のため走行不能になった10tダンプカーの修理を行っていたところ、駐車場所が緩やかな登り坂の道路の路肩だったためダンプカーがゆっくり後退し、左後輪付近にいた者がひかれた。	221	7	30 ～ 49
2001	5	15 ～ 16	月末の棚卸のため同僚と2名で電動式回転棚にある在庫のチェックを行っていて、在庫が何点か足りなかったため回転棚に乗って棚を下部に動かし、落ちていた部品を一つひとつ見つけていたときに、回転棚で頭部を挟まれた。	169	7	10 ～ 29
2001	6	14 ～ 15	キャリアカー(2t)で走行中、国道交差点において赤信号で停止していたトレーラーに追突した。	221	17	30 ～ 49
2001	6	11 ～ 12	事務所の出入口から通用路に出たときに、店員が後進で敷地内の展示場に移動させていた試乗車に激突された。	231	6	10 ～ 29
2001	7	19 ～ 20	整備した車両を顧客に納め乗用車で走行中、対向車が突然右折したため衝突し助手席に乗車していた者が死亡した。	231	17	10 ～ 29
2001	7	16 ～ 17	営業を終え小型乗用車で走行中、緩い左カーブで対向車線にはみ出したため、対向の大型トレーラー牽引用ヘッドと正面衝突した。	231	17	30 ～ 49

2001	11	23 ～ 24	取引先の販売応援を行った帰り自動車道を走行中、追い越し車線に反対向きで停車中の車に衝突した。	231	17	1～ 9
2002	4	17 ～ 18	車を納車して事業場へ帰るため国道を走行中、運転していたトラックが左側ガードレールの衝突した。	221	17	1～ 9
2002	4	10 ～ 11	整備工場の自動車完成検査（車検）場所において、ブレーキテストのため乗用車（2000cc）の前輪をテスターに乗せシフトをDレンジに入れた状態で車から降り、次のサイドモールテスト（車両バランス）の準備のため車の前方付近で作業中、テスターのストッパーが解除されたためアイドリング状態であった車が走り出し車両と壁との間に胸を挟まれた。	231	7	10 ～ 29
2002	3	15 ～ 16	自動車の解体作業場でトラック荷台の解体作業中、荷台の鳥居部分と床部分を外すためフォークリフトでトラック荷台を1.5m程度持ち上げた状態で接合部のボルトをガス溶断し、鳥居部分の正面下から大ハンマーで鳥居部分を叩いていたときに、鳥居部分が倒れて下敷きになった。	364	5	10 ～ 29
2002	7	20 ～ 21	高速道路を走行中のトラックが白煙を出しながら路側帯に停車したため、減速した後続の定期運行バス、ワゴン型タクシーなど車両8台が次々と追突し、ワゴン型タクシーの乗客3名が死亡した。	231	17	50 ～ 99
2002	7	20 ～ 21	高速道路を走行中のトラックが白煙を出しながら路側帯に停車したため、減速した後続の定期運行バス、ワゴン型タクシーなど車両8台が次々と追突し、ワゴン型タクシーの乗客3名が死亡した。	231	17	50 ～ 99
2002	11	8 ～ 9	輸入バイクの販売促進のためのバイク・ツーリングのため顧客4名と国道を走行中、最後尾を走行していてバランスを崩し、車道と歩道の区切りに設けられたコンクリート縁石に激突した。	231	17	10 ～ 29
2002	9	15 ～ 16	顧客先を訪問するため会社の乗用車で走行中、左カーブでセンターラインを約40cmはみ出したときに、対向の2tミキサー車も約20cmセンターラインをはみ出してきて正面衝突した。	231	17	10 ～ 29

2002	2	15 ～ 16	社内で、椅子に座って仕事を行っていたときに、突然意識を失って椅子から床に倒れ、病院で死亡した。	921	90	10 ～ 29
2003	4	21 ～ 22	訪問先より乗用車で帰社途中、国道で道路左側のコンクリート壁に衝突した。	231	17	10 ～ 29
2003	4	11 ～ 12	レッカー車で牽引してきた故障車（車両質量13.28t、成人病検診車）を牽引装置から切り離れたところ、車輪止めを乗り越えて故障車が後退し始めたので、止めようと後ろに回り込み、故障車とコンクリートの壁との間にはさまれた。	231	7	10 ～ 29
2003	5	19 ～ 20	油圧式ジャッキで乗用車（重さ約760kg）を上げて、仰向けの状態で台車に乗って車体下の修理作業を1人で行っていたときに、首付近を車体と台車との間にはさまれた。	361	7	1～ 9
2003	5	10 ～ 11	キャリアカーに車を搭載して国道を走行中、道路工事の渋滞で停車していた4tトラックに追突し、反動で中央分離帯に乗り上げて対向車と衝突したときに、搭載していた車が前方に移動したため、搭載していた車とハンドルとの間にはさまれた。	221	17	1～ 9
2003	9	23 ～ 24	営業先から乗用車で支店にもどる途中、追い越し車線に車がスピンして右側ガードレールに激突したところへ後続車に追突された。	231	17	1～ 9
2003	12	0 ～ 1	自動車整備工場の喫煙所において、休憩時間にタバコを吸おうとしてライターを付けたところ、直前に使用していたパーツクリーナーに引火し上半身が燃え上がった。	512	16	10 ～ 29
2004	11	16 ～ 17	フォークリフトのマスト下部にある油圧ホース接続部分からのオイル漏れを修理していたところ、マストを支えていた角材が外れ、マストおよびフォークが最下部まで落下し、フォーク部分に挟まれた。	222	4	10 ～ 29
		15	購入した中古トラックを運搬用トラックに積載する作業を一人で行って			1～

2004	3	～ 16	たが、トラック右側の地面で倒れているのが発見された。	612	7	9
2004	11	～ 12	乗用車で港湾道路を走行中、車線を区切るコンクリート壁に衝突した。	231	17	～ 29
2004	4	23 ～ 24	中古自動車オークションに出品される車両の現況調査業務を行っていたところ、気分が悪くなり、救急車で病院に搬送され死亡した。	911	90	1～ 9
2005	7	13 ～ 14	社有車で国道を走行中、直線道路のセンターラインをはみ出し、対向車のトレーラートラックと正面衝突した。	231	17	～ 30 49
2005	3	～ 14	軽自動車で国道を走行中、前走の同僚が運転する軽自動車が渋滞で減速したところに被災者の運転する軽自動車が追突し、横転、そのまま対向車線にはみ出し、走行してきたトラックと正面衝突した。	231	17	1～ 9
2005	1	13 ～ 14	車載してきたドラム缶を降ろし、横に寝かせて転がし移動させ、所定位置の壁際に立てかけたところ、勢い余って壁際にあった圧縮空気配管のプラグ先端がドラム缶の側面に突き刺さり、圧縮空気が流入してドラム缶の内 部圧力が高まり、ドラム缶の底が破裂し飛び上がり、ドラム缶からプラグを抜こうとしていた被災者に当たった。	611	15	～ 10 29
2005	6	3 ～ 4	自宅にて睡眠中、突然大きなびきをかいて、ひきつけ・痙攣を起こし死亡した。	921	90	～ 30 49
2005	6	12 ～ 13	発熱のため自宅で安静にしていたところ、意識不明の状態に陥り、死亡した。	911	90	～ 10 29
2006	1	～ 13	営業のため、事業場から国道を走行中、コンビニ手前のカーブで対向車線へはみだし、対向車のダンプトラックと正面衝突した。	231	17	～ 10

		14				29
2006	2	10 ～ 11	被災者は、車検の終了した軽自動車を積んだ車両運搬用のトラックを運転し、客先に向かって店を出発した。搬送途中、左岸の土手を走行していると き、道路左側にはみ出しトラックと共に転落した。	221	17	10 ～ 29
2006	4	9 ～ 10	労働者が出社したところ、店舗シャッター前で被災者が地面と小型乗用車の間に挟まれているのを発見した。被災者は一人で小型乗用車の右前方部を軽自動車用ジャッキで持ち上げてタイヤを外し、車両下部で整備作業を行っていた。	361	7	1～ 9
2006	9	12 ～ 13	片側1車線の公道で右折する為に停車中、後方より前方不注視の大型貨物車が追突、反対車線に押し出されたところを直進してきた別の大型貨物車に衝突された。	221	17	50 ～ 99
2006	10	19 ～ 20	客先宅に修理を行った自動車を届けに行き、修理の間貸していた代車を運転して事業場に戻る途中、市道で進行方向右側の水路にかかる橋に衝突して田圃に転落した。	231	17	10 ～ 29
2007	3	17 ～ 18	被災者が一人で敷地内にある雪をトラクター・ショベルを使って除雪作業中、バケットと車体の間にはさまれた。	141	7	1～ 9
2007	10	8 ～ 9	つり上げ荷重2.93tの車両積載形トラッククレーンを用いて、大型乗用車を荷台から地上に降ろす作業中、被災者は荷台上で大型乗用車に玉掛けをした後、地上に降り、当該トラッククレーンの操作レバーを操作して、当該大型乗用車をつり上げた後、右旋回をしていたところ、当該トラッククレーンが転倒し、被災者がトラッククレーンの下敷きになった。	212	6	1～ 9
2007	5	11 ～ 12	運輸支局から車で帰社する途中、センターラインをオーバーし対向車線を直進してきたミキサー車と衝突した。	231	17	0
		19	車検を終えた散水車（車両重量6.5t）の車体フレーム内側の腐食状況を上司に確認してもらうため、2本の油圧シリンダーで構成される車両リ			100

2007	7	～	フト装置（能力12t+12t）のシリンダーを上昇させ、車両を約55cmリフトアップしたところ、車両がバランスを崩し横転したため、右後輪側でリフト操作していた被災者が車両の下敷となった。	221	7	～	299
2007	10	7 ～ 8	事業場の駐車場において、被災者が社有車（軽ワゴン車）の運転席扉と車体との間にはさまれている状態で発見された。被災者が業務に出かけるために、社有車の運転席の扉を開け、運転席に着かずに地面に立ったままエンジンを始動したところ、社有車が前方に動き出し、その後、開いた状態の運転席の扉が立ち木に当り、扉が閉められる形となり被災者が扉と車体の間にはさまれた。	231	7	1～	9
2007	4	23 ～ 24	車の部品を軽トラックで運んでいたところ、交差点にて、出会い頭に相手車（ワゴン車）に激突した。	231	17	1～	9
2008	9	16 ～ 17	車検を終えた自動車（ミニバン）を顧客先に届けるため、自動車を運転して国道を走行していたところ、対向車（セダン）が中央分離帯を乗り越えて被災者が運転していた自動車の運転席部に衝突してきたため死亡した。現場は片側二車線の見通しの良い直線道路であり、被災者は、右側車線を走行していた。	231	17	10 ～	29
2008	9	11 ～ 12	大型バスをタイヤリフターにより上昇させ、その下で修理作業をしていたが、その状態で同僚作業者が当該リフターの下降操作を行ったため、被災者が地面と当該リフターの間にはさまれた。	219	7	50 ～	99
2008	11	12 ～ 13	上司が運転する車に同乗して車両置場に他の車両を取りに行く途中、県道で自損事故を起こし、後部座席に乗っていた被災者が車外へ投げ出されて死亡した。	231	17	1～	9
2008	3	13 ～ 14	展示している中古外国車の位置を調整するために、タイヤに食込んだ車止めを除去しようと前後に動かしていたところ、車の前で車止めを抜こうとして車止めごと前進してひかれて死亡した。	231	6	1～	9
		17	被災者は、自家用の軽自動車を運転し個人宅での訪問営業業務を終え、次の営業先に向かうため市道を走行していた。信号のない交差点に差し掛				50

2009	3	18	～	かったところ、左側から来た乗用車と出会い頭に衝突し、その反動で右前方の路外へ転落した。	231	17	～	99	
2009	12	12	11	被災者1人で会社ガレージにて、軽自動車の両前輪付近に高さ40cmのウマを2個使用し、軽自動車の下に入って修理をしていた。修理作業中、ウマが外れ、軽自動車と床面とにはさまれた。	379	5	1	～	9
2009	3	18	17	被災者が営業業務のため、乗用車を運転して県道を走行していたところ、トンネル入口のコンクリート部分に衝突して車両が炎上した。	231	17	～	99	50
2009	10	12	11	被災者はオイル交換のため工場内のカーリフト上に置いてあった乗用車の扉を開け、カーリフトに足をかけ乗用車内の書類を探していたが、サービスマンが被災者を乗せたまま乗用車を1.3mリフトアップし、オイル交換作業を行おうとしたところ、被災者は、カーリフトを踏み外し床面に仰向けに転落した。	214	1	～	29	10
2009	6	19	18	被災者は、部下に気分が悪いことを告げて席を外した。その後、被災者に連絡がとれないため捜していたところ、約3時間後に敷地内の駐車場に止めてあった車の中で気を失っていたのが発見された。その後、病院で死亡が確認された。	921	90	～	29	10
2010	2	10	9	左手にファイルを持って2階から1階へ階段を降りていたところ、下から10段目付近から足を踏み外し1階床まで転落した。意識がなく、いびきをかいていたので救急車で病院に搬送したが、2日後に死亡した。階段の片側（降りる時は左側）に手すりが設けられていた。	413	1	～	29	10
2010	2	10	9	被災者が自動車下部を洗浄するため、カーリフトを用いて自動車を上昇させて、自動車の下にて作業を行っていた。作業中カーリフトを固定していたアンカーが外れたため、カーリフトが倒壊し、自動車が落下した。自動車の下で作業を行っていた労働者に当たったもの。カーリフトの設置方法が不適切であったとみられる。	214	5	～	9	1
				顧客先から自家用車の法定点検の依頼を受けたため、顧客の勤務先で車両					

2010	4	13 ～ 14	を引き取った後、所属事業場に向かうため、広域農道を運転中、左カーブに差し掛かったところでセンターラインを少しはみ出し、センターライン寄りを走行してきた対向乗用車と道路の中央付近で衝突し、全身を強打したことにより死亡した。なお、対向車の運転者は、昼の休憩後、工場に向かっていたもの。	231	17	10 ～ 29
2010	7	4 ～ 5	国道上において、故障中の大型トラックを修理するため、車体の下に入り、修理作業を開始した直後、後方より走行してきたトラックに追突された。追突された衝撃で故障車両が動き、被災者は左後輪タイヤに轢かれ、搬送された病院にて死亡が確認された。なお、作業中は故障車両のハザードを点灯させ、後方に停止表示機材を置いていた。	221	17	10 ～ 29
2010	7	16 ～ 17	故障したトラックの出張修理依頼を受け現場に向かったが、その場での修理が困難であったことから、当該事業場の整備工場に持ち込み、キャブを前に倒しエンジンの上に跨った状態で故障箇所であるターボブラケットを溶接（アーク溶接）した。夕刻になり、作業を終え事務所に戻り自分の席に座ったところ、急に呼吸を乱し机にもたれ掛かる様に意識を失った。病院に搬送されたが熱中症を発症し死亡した。	715	11	10 ～ 29
2010	12	17 ～ 18	被災者は、自動車整備工場内で自動車のリアバンパーを交換するためリフトで自動車を1m10cm程持ち上げて作業を行っていた。その後方、約6mのところでは他の自動車の整備を行っていた他の労働者が、整備を終えて自動車を後退させたところ、被災者に激突し被災者自身が整備していた自動車のリアバンパーと後退してきた自動車のリアスポイラーに頭部を挟まれて死亡したもの。自動車を後退させた労働者が、自動車のブレーキパッドの交換後、ブレーキペダルを数回踏んでブレーキの踏み代を出していなかったため自動車のブレーキが効かなかった。また、自動車を後退させる際に合図を行わなかった。	231	7	10 ～ 29
2011	6	6 ～ 7	早朝、自宅トイレで嘔吐した状態で死亡していたところを家族に発見されたもの。死亡原因は「脳内出血」であり、発症前1ヶ月間の時間外労働時間数が100時間を超えていたもの。（平成23年11月9日労災認定）	999	90	10 ～ 29

2012	3	18 ～ 19	被災者は会社から顧客先にワゴン車を取りに行き、帰社するため県道を走行していた。その際、対向車線を走行していた普通乗用車が、センターラインを超えて被災者が運転するワゴン車に正面衝突した。被災者は、脳内出血等により死亡した。	231	17	10 ～ 29
2012	10	17 ～ 18	タンク車の車検整備のため、車体をジャッキ（前後4点）に乗せ後輪の板バネ付属品の交換を行っていたところ、車体が傾き、車体後部と作業床の間に腹部をはさまれ、内臓破裂で死亡した。	221	7	10 ～ 29
2012	6	0 ～ 1	研修終了後、帰宅のため国道を走行中、被災者が運転する車がセンターラインをオーバーし対向車と正面衝突した。被災者は、救急搬送先の病院で死亡し、助手席に乗車していた同僚が重傷を負った。	231	17	10 ～ 29
2012	5	13 ～ 14	高速道路の上り車線において、道路工事で片側交互通行になっていたため停車していたところ、大型トラックが被災者が運転するキャリアカーに追突し、キャリアカーはその前に停車していた大型トラックに追突した。	221	17	10 ～ 29
2012	5	13 ～ 14	高速道路の上り車線において、道路工事で片側交互通行になっていたため停車していたところ、大型トラックが被災者が運転するキャリアカーに追突し、キャリアカーはその前に停車していた大型トラックに追突した。	221	17	10 ～ 29
2012	2	13 ～ 14	駐車場に停めた自家用車内で昼休みを過ごした被災者が事務所に戻る途中、荷の積み込み作業中のフォークリフトに轢かれ、死亡した。	222	7	10 ～ 29
2012	4	9 ～ 10	時間外労働が発症前6ヶ月間にわたり、1ヶ月平均80時間以上認められるなどの過重労働等により、クモ膜下出血を発症し死亡した。	921	90	1～ 9
2013	8	14 ～ 15	事業場（店舗）のひさしの上で、壁面に広告用横断幕（7m）を取り付けるため、後退りしながら同横断幕を広げていたところ、誤ってひさしの端部から足を踏み外し、4m下の地面（アスファルト舗装）に墜落し、頭部を強打する等により死亡した。尚、被災者は安全帯を使用していなかったほか、保護帽を被っていなかった。	415	1	30 ～ 49

2013	4	15 ～ 16	業務により精神疾患を発症し、死亡した。	921	90	10 ～ 29
2013	7	10 ～ 11	被災者は、国道の路側帯において、キャリアカーに車を乗せる作業をしているところ、走行してきた普通乗用車に轢かれ死亡した。	231	17	1～ 9
2013	6	16 ～ 17	ショールームの天井から雨漏れの連絡があり、被災者が屋外展示場の屋根で、雨漏れ箇所の確認や補修作業を行っていたところ、ガラスを踏み抜き、約6.3m下のアスファルトに墜落した。尚、屋外展示場の採光のため、屋根の一部がガラスとなっていた。	415	1	50 ～ 99
2014	9	11 ～ 12	車両積載車で帰宅中、国道トンネル内のカーブにて、対向車線を走行中のダンプカーと衝突し、対向車線の側壁に激突した。	221	17	10 ～ 29
2014	5	11 ～ 12	車両運搬車を運転中、渋滞して停車していたトレーラーに追突し、トレーラーと車両にはさまれた。	221	17	1～ 9
2014	3	15 ～ 16	被災者は、大型ダンプトラックのライセンスランプの整備を行う作業中、ベッセル（荷台）を少し上昇させた状態で、ダンプトラックのシャシ後方から覗き込むような姿勢でライセンスランプ付近で作業を行っていた際、ダンプトラックのエンジンを始動したままでダンプレバーを中間位置にしていたため、ベッセルが徐々に上昇したとみられ、リアパンパーとベッセル後部に挟まれた状態で発見された。	221	7	30 ～ 49
2014	1	10 ～ 11	被災者は、一人で貨物自動車（ワンボックスカー）の後部（両輪）をジャッキアップし、2箇所にリジットラック（車体支持工具）を設置のうえ車体下部に上半身を入れデファレンシャルの取付け作業を行っていたところ、何らかの原因で車体が落ち、車体と地面との間に胸部を挟まれた状態で意識のないところを発見された。	379	4	1～ 9
		12	店舗2階駐車場において、受電設備の更新工事が行われていた。被災者が			100

2015	3	13	～	当該工事の立ち合いをしていたところ、工事のために床に敷いてあった合板で躓き転倒し、腹部を強打した。	522	2	～	299
2015	8	1	～	2	被災者は、所属会社が所有するトラックを運転し、国道を北上していたところ、交差点において、赤信号で停車していたトラックに追突した。	221	17	1～ 9
2015	3	11	～	12	自社で所有する積載車のバックカメラの調子が以前から悪いことから、バックカメラの交換を被災者は行おうとしていた。配線の確認をするため、油圧ジャッキで車体を持ち上げ、ウマを車体にかませるため車体の下に入ったところ、油圧ジャッキの圧が抜けて車体が下がりタイヤと地面に胸をはさまれたもの。	361	7	1～ 9
2015	5	11	～	12	4 t ダンプの車検整備において、荷台を上げて車体と荷台の間に入り荷台昇降用油圧ホースを交換する作業中、荷台を上げた後、ストッパーを1つ設置したが荷台を下げて固定せずに、油圧ホースを取り外したため荷台が下降し、ストッパーが衝撃で外れ、車体と荷台の間で作業していた被災者の頭部が挟まれ死亡したもの。	221	7	10 ～ 29
2016	11	19	～	20	被災者は、店長とともに災害発生現場にて、自動車マフラーの取り替え作業に着手した。店長は、パンタグラフジャッキにて車体後部を浮かせ、左側サイドバンパー中央付近にウマを設置し、車輛の両後輪を外した。被災者は、車体の下に右側から入り、マフラーのフランジ部分に取付けられていたナットをスパナで緩めていたところ、車体が揺れたはずみでジャッキが外れ車体が地面に落下し車体の下敷きになった。	361	4	10 ～ 29
2016	8	17	～	18	事業場にて商談、展示車両の洗車業務等に従事していた労働者が、17時30分頃、事業場内の清掃作業中に頭痛を訴えた。2階の休憩室で休養し、19時過ぎに帰宅した。翌日の朝、起床してこないことから、家族が様子を見にいったところ、呼吸停止の状態で見つめられた。警察で検視したところ、直腸温度が37度と高温状態が確認され、直接死因が熱中症の疑いとされた。	715	11	30 ～ 49
		6			被災者は本社において実施される研修に出席するため、自宅から本社へ出			10

2016	4	7	張した。その道中、自動車トンネル内で、他の事業場所属の労働者が運転する大型貨物車に追突された。	221	17	29	
2017	12	18	被災者は、顧客先でフォークリフトの修理を行った後に引き続き点検を実施していた。右後輪の駆動部分にグリスアップを行っていたところ、被災者の後方に2段積みで置かれていた荷のうち、上段の1個（W=1.2m、D=0.8m、H=1.4m、重量1トン）が落下し、被災者を直撃した。	611	4	9	
2017	5	14	プラットホームの縁に立ち、後進してくるトラックを誘導していた被災者が、約1.2メートル下のコンクリート面に転落した。目撃者によれば、被災者の倒れていた姿勢から転落の際受け身を取るような動作はしておらず、頭から地面に転落した模様。	419	1	9	
2017	1	22	被災者は、午後11時45分頃、事務所内の自分の机で事務作業に従事していたところ、突然「頭が痛い」と言葉を発した後、パソコンのキーボードに頭をつけ、そのまま右向きに傾き、頭から床に落ちた。その後、午前1時22分、くも膜下出血による死亡が確認された。	921	90	29	
2018	6	8	4tトラックのウイング式荷台の屋根上の補修作業を終えた後、脚立を伸ばしてトラックの荷台に立て掛けたはしごへと荷台の屋根上から移動して降りる際に、はしごが倒れたため地上に墜落して背中および頭部を強打し、後日死亡したものの。	371	1	9	
2018	1	4	5	4	921	90	99
2018	1	12	13	231	17	29	
2019	10	20	客先から帰るために社有車を運転し、自動車道上り線を走行中、中央分離帯に衝突し、反動で道路左側の法面に乗り上げて横転し、そのはずみで車	231	17	10	

		22	外に投げ出されたもの。			29
2019	5	14 ～ 16	被災者は、恒常的な長時間労働に起因し、くも膜下出血で倒れ、5日後に死亡した。	921	90	10 ～ 29
2020	4	12 ～ 14	被災者は、大型トラックのタイヤ（直径1.3メートル、幅22センチ）の整備のため、当該タイヤを作業場の柱に立てかけてコンプレッサーにより空気充てん作業を行っていたところ、破裂音が生じ、その反動で当該タイヤが被災者の右側前頭部に直撃し、死亡したもの。ヘルメットなし。	379	4	10 ～ 29
2020	2	18 ～ 20	県道で横断歩道を渡って、販売店（取引先の店舗）から道の反対側に止めていた自分の車へ戻る際、走ってきた軽乗用車にはねられた。その後病院へ運ばれて、1時間30分後に死亡が確認された。	231	17	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。